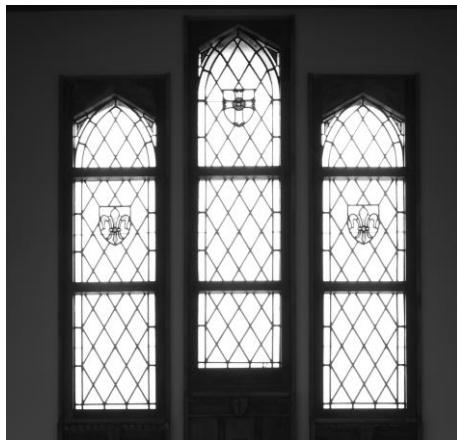


# 東日本大震災 9周年記念の祈り

午後2時46分の黙想

ー同じ時 想いを一つに 皆で祈りをー



ーすべての逝去者、困難のうちにある方々を覚えてー

2020年3月11日（水）午後2時15分

※ 礼拝の開始時間（午後 2 時 15 分）は目安です。礼拝が始まってから福音書朗読が終わるまでは約 10 分程度です。説教または勧話を 15 分程度としますと、午後 2 時 46 分まで約 5 分程度の黙想時間となります。

それぞれの状況に応じて、時間を調整し、この式文の全体、あるいは一部を用いて、祈りの時を共にしていただければ幸いです。

# 東日本大震災 9 周年記念の祈り

この祈りは午後 2 時 15 分から用いてもよい。

司式者は沈黙のうちに入堂する。

## ともに集う

一同立つ。

司式者 父なる神と主イエス・キリストからの恵みと平和が、皆さんとともに  
会衆 また、あなたとともに

## 悔い改めの祈り

司式者 神はその独り子をお与えになったほどに、世を愛してくださいました。  
この神の愛に応えるため、自らを省み、ともに罪の赦しを祈りましょう  
ここで一同ひざまずく。しばらく自らを省みた後、一同で唱える。

一同 憐れみ深い神よ、わたしたちは、してはならないことをし、しなければな  
らないことをせず、思いと、言葉と、行いによって、あなたと隣り人に対  
して多くの罪を犯しています。どうか罪深いわたしたちをお赦しください。  
新しい命に歩み、み心に従い、み栄えを現すことができますように、  
救い主イエス・キリストによってお願いいたします アーメン

## 聖歌 第 477 番

[ユニゾン]

1 おそれ にーとらわ れ さまよ う や み じ に  
 2 たえ ざ るーめぐみ に はげ ま し や う け て  
 3 こころ はーひらか れ みこ と ば か が や く

ひ る ま ぬーここの ろ を お あ た え くり だ さ い  
 せ つ な くーい の り は り お み あ ち を き り ひ さ く  
 く ろ く もーす ぎ さ り 日 だ ま り に む か う

い か な るーと き に も あ な た は と も に  
 こ の み をーゆ だ ね る あ な た を し ん じ め  
 た び じ をーふ み だ す あ な た を み つ め

か み よーち か ら を い き る ち か ら を  
 か み よーみ わ ざ ら を い き る ち か ら を  
 か み よーひ か り を い き る ち か ら を

Osoreni toraware  
 Paul Hikari Miyazaki (1965-)

8888 8777  
 KANAME  
 Nitei Torii

## とく とう 特 禱

司式者 しゅ みな 主は皆さんとともに

会衆 また、あなたとともに

司式者 いの 祈りましょう

てんち つく ぬし いま ひがしにほんだいしんさい はっせい ねん ひ むか  
天地の創り主である主よ、今わたしたちは東日本大震災の発生から9年の日を迎え、共に祈るためにここに集いました。東日本大震災の地震と津波によって、そしてとうきょうでんりょくふくしまだいいちげんしりょくはつでんしょ じ こ おお く なん う ひとびと  
して東京電力福島第一原子力発電所事故によって大きな苦難を受けた人々のために祈ります。またその日から今日に至るまで、幾多の災害が日本国内において、また世界の各地で起こりました。その中で犠牲となった人々、また今なお困難な生活が続く人々のことも思い、祈ります。どうぞあなたの慰めと励ましのちから おお ひとびと うえ おお さいがい あらそ にく  
み力がそれら多くの人々の上にありますように。多くの災害とともに、争い、憎しみの絶えることのないこの世界にあって、わたしたちがあなたの創造の美しさをかいふく ちい うつわ もち ちから みちび あた  
を回復させるため、小さな器として用いられますように、力と導きをお与えください。くるし み なや ひとびと とも あゆ しゅ ねが  
しみ、悩み人々と共に歩まれる主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン

## き ともに聞く

司式者 せいしよ ことば き 聖書のみ言葉を聞きましょう

会衆は着席する。

### だい ろうどく 第1朗読

朗読者 第1の朗読は、フィリピの信徒への手紙 第2章1節から

1 そこで、幾らかでも、キリストによる励まし、愛の慰め、霊の交わり、あわ いづく ころ おな おも おな あい いだ ころ  
憐れみや慈しみの心があるなら、2 同じ思いとなり、同じ愛を抱き、心をあ おも ひと わたし よろこ み なにごと り こしん  
合わせ、思いを一つにして、私の喜びを満たしてください。3 何事も利己心きよえいしん  
や虚栄心からするのではなく、へりくだって、互いに相手を自分よりも優れ

た<sup>もの</sup>者と考<sup>かんが</sup>えなさい。4 めいめい、自<sup>じ</sup>分<sup>ぶん</sup>のことだけでなく、他<sup>た</sup>人<sup>にん</sup>のことにも注<sup>ちゅう</sup>意<sup>い</sup>を払<sup>はら</sup>いなさい。5 互<sup>たが</sup>いにこのことを心<sup>こころ</sup>がけなさい。それはキリスト・イエスにもみられるものです。

6 キリストは

神<sup>かみ</sup>の形<sup>かたち</sup>でありながら

神<sup>かみ</sup>と等<sup>ひと</sup>しくあることに固<sup>こ</sup>執<sup>しつ</sup>しようとは思<sup>おも</sup>わず

7 かえって自<sup>じ</sup>分<sup>ぶん</sup>を無<sup>む</sup>にして

僕<sup>しもべ</sup>の形<sup>かたち</sup>をとり

人<sup>にんげん</sup>間<sup>おな</sup>と同じ者<sup>もの</sup>になりました。

人<sup>にんげん</sup>間<sup>すがた</sup>の姿<sup>あらわ</sup>で現<sup>あら</sup>れ

8 へりくだって、死<sup>し</sup>に至<sup>いた</sup>るまで

それ<sup>じゅう</sup>も十<sup>じ</sup>字<sup>か</sup>架<sup>し</sup>の死<sup>いた</sup>に至<sup>いた</sup>るまで

従<sup>じゅうじゅん</sup>順<sup>じゅん</sup>でした。

9 このため、神<sup>かみ</sup>はキリストを高<sup>たか</sup>く上<sup>あ</sup>げ

あ<sup>な</sup>らゆる名<sup>な</sup>にま<sup>な</sup>さる名<sup>な</sup>を

お与<sup>あた</sup>えになりました。

10 それは、イエスの御<sup>み</sup>名<sup>な</sup>によって

天<sup>てんじょう</sup>上<sup>じょう</sup>のもの、地<sup>ち</sup>上<sup>じょう</sup>のもの、地<sup>ち</sup>下<sup>か</sup>のものすべてが

ひざ<sup>ひざ</sup>をかがめ

11 すべての舌<sup>した</sup>が

「イエス・キリストは主<sup>しゅ</sup>である」と告<sup>こく</sup>白<sup>はく</sup>して

父<sup>ちち</sup>なる神<sup>かみ</sup>が崇<sup>あが</sup>められるためです。

(フィリピ 2:1-11)

朗読者 第1の朗読を終わります

詩 編 第145編14－21節

- 14 主は悩みのうちにある者を支え || 倒れる者をすべて立たせてくださる
- 15 すべての者の目はあなたを待ち望み || あなたは時にしたがって命の糧を  
恵まれる
- 16 生きているすべてのものの願いを || あなたはみ手を開いて満たされる
- 17 主の行われることはすべて正しく || そのみ業は慈しみに満ちている
- 18 主はおられる、助けを求める人の近くに || 心から祈る人の傍らに
- 19 神を畏れる人の願いを聞き入れ || その叫びを聞いて助けられる
- 20 神を愛する人をすべて主は守られ || 悪い人は退けられる
- 21 わたしの口は主の誉れを語り || すべての民は世々に限りなく、尊いみ名  
をほめたたえる

福音書

朗読者 マタイによる福音書 第5章1節から

1 イエスはこの群衆を見て、山に登られた。腰を下ろされると、弟子たちが御もとに来了。2 そこで、イエスは口を開き、彼らに教えられた。

3 「心の貧しい人々は、幸いである

天の国はその人たちのものである。

4 悲しむ人々は、幸いである

その人たちは慰められる。

5 へりくだった人々は、幸いである

その人たちは地を受け継ぐ。

6 義に飢え渴く人々は、幸いである

その人たちは満たされる。

7 <sup>あわ</sup> 憐 <sup>ぶか</sup> れ <sup>ひと</sup> み <sup>ひと</sup> 深い人々は、<sup>さいわ</sup> 幸いである

<sup>ひと</sup> 那些人たちは<sup>あわ</sup> 憐 <sup>う</sup> れ <sup>う</sup> め <sup>う</sup> を受ける。

8 <sup>こころ</sup> 心の<sup>きよ</sup> 清 <sup>ひと</sup> い <sup>ひと</sup> 人々は、<sup>さいわ</sup> 幸いである

<sup>ひと</sup> 那些人たちは<sup>かみ</sup> 神 <sup>み</sup> を見る。

9 <sup>へい</sup> 平和 <sup>わ</sup> を造 <sup>つく</sup> る人々は、<sup>さいわ</sup> 幸いである

<sup>ひと</sup> 那些人たちは<sup>かみ</sup> 神 <sup>こ</sup> の子 <sup>よ</sup> と呼ばれる。

10 <sup>ぎ</sup> 義 <sup>はく</sup> のために <sup>がい</sup> 迫害 <sup>ひと</sup> された人々は、<sup>さいわ</sup> 幸いである

<sup>てん</sup> 天 <sup>くに</sup> の国 <sup>ひと</sup> は <sup>ひと</sup> 那些人たちのものである。

(マタイ 5:1-10)

朗読者 マタイによる福音書を終わります

### \* <sup>かん</sup> 勧 <sup>わ</sup> 話 <sup>せ</sup> または <sup>つ</sup> 説 <sup>き</sup> 教 <sup>ょう</sup>

勧話または説教をする。

### \* <sup>ちん</sup> 沈 <sup>もく</sup> 黙

午後2時46分まで沈黙のうちに待つ。

### \* <sup>だ</sup> 打 <sup>しょう</sup> 鐘

午後2時46分に鐘を鳴らす。

一同、鐘とともに立ち、1分間、黙祷の時を持つ。

黙祷後、次の唱和を用いる。

司式者 <sup>ひがしにほんだいしんさい</sup> 東日本大震災によるすべての<sup>ぎ</sup> 犠 <sup>せい</sup> 牲 <sup>しや</sup> 者 <sup>おほ</sup> を覚え <sup>おほ</sup> ます

<sup>しゅ</sup> 主 <sup>えい</sup> よ <sup>えん</sup> 永遠 <sup>へい</sup> の <sup>あん</sup> 平安 <sup>ひと</sup> を <sup>ひと</sup> この人々 <sup>あた</sup> に <sup>あた</sup> 与 <sup>あた</sup> え

会衆 <sup>た</sup> 絶 <sup>ひかり</sup> え <sup>て</sup> ざる <sup>て</sup> み <sup>て</sup> 光 <sup>て</sup> を <sup>て</sup> も <sup>て</sup> っ <sup>て</sup> て <sup>て</sup> 照 <sup>て</sup> ら <sup>て</sup> し <sup>て</sup> て <sup>て</sup> くだ <sup>て</sup> さ <sup>て</sup> い

## しとしんきょう 使徒信經

一同立ち、歌いまたは唱える。

わたしは、<sup>てん ち</sup>天地の<sup>つく</sup>造り主、<sup>ぬし</sup>全能の<sup>ぜんのう</sup>父である<sup>ちち</sup>神を信じます。

また、その<sup>ひと</sup>独り子、わたしたちの<sup>しゅ</sup>主イエス・キリストを信じます。主は<sup>しゅ</sup>聖霊によ  
って<sup>やど</sup>宿り、おとめマリヤから<sup>う</sup>生まれ、ポンテオ・ピラトのもとで<sup>くる</sup>苦しみを<sup>う</sup>受け、  
<sup>じゅうじ</sup>十字架につけられ、<sup>し</sup>死んで<sup>ほうむ</sup>葬られ、よみに<sup>くだ</sup>降り、三日目に<sup>みつかめ</sup>死人の<sup>しにん</sup>うちからよみ  
がえり、<sup>てん</sup>天に<sup>のぼ</sup>昇られました。そして全能の<sup>ぜんのう</sup>父である<sup>ちち</sup>神の<sup>かみ</sup>右に<sup>みぎ</sup>座して<sup>ざ</sup>おられます。  
そこから主は<sup>しゅ</sup>生きている<sup>い</sup>人と<sup>ひと</sup>死んだ<sup>し</sup>人とを<sup>ひと</sup>審く<sup>さば</sup>ために<sup>こ</sup>来られます。

また、<sup>せいれい</sup>聖霊を信じます。聖なる<sup>しん</sup>公会、<sup>せい</sup>聖徒の<sup>こうかい</sup>交わり、<sup>せい</sup>罪の<sup>まじ</sup>赦し、<sup>つみ</sup>体の<sup>ゆる</sup>よみがえ  
り、<sup>えいえん</sup>永遠の<sup>いのち</sup>命を信じます アーメン

## へいわ あいさつ 平和の挨拶

司式者 キリストはわたしたちの<sup>へいわ</sup>平和です

会衆 わたしたちは主のみ<sup>しゅ</sup>名<sup>な</sup>によって<sup>で</sup>出会い、主の<sup>へいわ</sup>平和を<sup>わ</sup>分かち<sup>あ</sup>合います

司式者 <sup>へいわ</sup>平和の<sup>あいさつ</sup>挨拶を<sup>か</sup>交わしましょう

ここで、互いに「主の平和」と唱えて挨拶を交わす。

## ささ 献げもの

ここで次の言葉を用いてもよい。あるいは他のふさわしい言葉か聖句を用いてもよい。

司式者 <sup>しゅ</sup>主の<sup>すく</sup>救いの<sup>わざ</sup>み業に<sup>かんしゃ</sup>感謝し、ともに<sup>さんび</sup>賛美を<sup>ささ</sup>献げましょう

信施はここで集める。その間に聖歌を用いてもよい。

## 聖歌 第526番

1 みつ める こと か ら } (1~3) はじ め て ゆ こ う  
 2 きづ いた こと か ら  
 3 で き る - こと か ら  
 4 つづ けて - み よ う つづ けて ゆ こ う

(1~3) あな たの すぐ そ ば わ た し は こ こ に い る  
 (4) あな た と わ た し は と も に - い き て い る

マタ28:20 使4:20

Mitsumeru koto kara  
 Youth Assembly 1996

OWARANAI AI  
 Youth Assembly 1996  
 arr. John Ryuta Suzuki (1959-)

信施を献げるときは、以下の言葉を歌いまたは唱えてもよい。

司式者 すべてのものは主の<sup>しゅ たまもの</sup>賜物

一同 わたしたちは主から<sup>しゅ う</sup>受けて主に<sup>しゅ ささ</sup>献げたのです アーメン

## と も に 祈 る

司式者は次のように言う。会衆の代表者が言ってもよい。

司式者 すくぬし 救い主イエス・キリストのみ言葉とみわざとよ ぜんこうかい 全公会のため、また世  
かい 界のために、ことに ひがしにほんだいいんさい 東日本大震災を覚えて祈りましょう

司式者 いつく しみ深い神、慰めぬの主よ、いま、わたしたちは 9 年を経た ひがしにほんだいいん 東日本大震  
さい おぼ 災を覚えて祈ります。どうか、被災地にある人、避難生活を強いられて  
ひと とく にほんしゃかい なか い いる人、特に日本社会の中で生きることの こんなん くる ひと しょうらい きぼう  
を見い出せない人（ことに——）を支えてください

会衆 しゅ 主よ、お聞きください

司式者 げん しりよくはつでんじょ じ こ 原子力発電所事故により、うしな 失われた し ぜん ひとびと せいかつ おぼ 自然と人々の生活を覚えます。故  
さと はな せいかつ ひと きけん さぎょう じゅうじ ひと かぞく まも 郷を離れて生活する人、危険な作業に従事する人とその家族をお守り  
ください。そして せいじ しゃかい せきにん も ひとびと ただ みち あゆ 政治と社会に責任を持つ人々に正しい道を歩ませてく  
ださい

会衆 しゅ 主よ、お聞きください

司式者 わたしたちもまた、これらの くる 苦難をつねに おぼ 覚えることができますように。  
にっぽんせいこうかい ひ さいしや し えん はたら つよ 日本聖公会の被災者支援の働きを強めてください。そしてわたしたち  
おも ちから あ とも あゆ つづ も 思いと力を合わせて、共に歩み続けることができるように 導いてく  
ださい

会衆 しゅ 主よ、お聞きください

司式者 いのちの みなもと 源である しゅ 主よ、 ひがしにほんだいいんさい 東日本大震災の すべての ぎ せいしや 犠牲者、そして せ かい  
かくち さいがい あらそ なか いのち うしな ひとびと うで なか いだ 各地の災害と争いの中で生命を失った人々を、あなたのみ腕の中に抱  
き、 えてん やす あた 永遠の安らぎを与えてくださいますように

会衆 しゅ 主よ、これらの祈りを しゅ 主イエス・キリストのみ名によって おねが お願いいたし  
ます。アーメン

## 主の祈り

一同ひざまずく。

司式者 主よ、憐れみをお与えください

会衆 キリストよ、憐れみをお与えください

司式者 主よ、憐れみをお与えください

次に一同、主の祈りを歌いまたは唱える。

天におられるわたしたちの父よ、

み名が聖とされますように。

み国が来ますように。

みこころが天に行われるとおりに地にも行われますように。

わたしたちの日ごとの糧を今日もお与えください。

わたしたちの罪をおゆるしてください。わたしたちも人をゆるします。

わたしたちを誘惑におちいらせず、

悪からお救いください。

国と力と栄光は、永遠にあなたのものです アーメン

## 感謝

司式者 ともに祈りましょう

すべてのものの源である神よ、あなたは遠く離れていたわたしたちを、み子との出会いをとおして主の家に招いてくださいました。このあなたの愛に感謝し、み名をほめたたえます。あなたからいただいたみ言葉と恵みと平和を、わたしたちがすべての人びとと分かち合うことができますように。そして聖霊の導きにより、あなたの光でこの世界を照らす働きに与らせてください。またあなたがわたしたちに与えてくださった希望を変わることなく保たせ、すべてのものがみ名をほめたたえることができますように、主イエス・キリストによってお願いいたします アーメン

## 主 と と も に 行 く

終わりに司式者は次のように言う。

司式者 かぎ 限りない あい めぐ 恵みの かみ 神が、 よ 世にある ひと 人と よ 世を去った ひと 人との ぜんこうかい 全公会を、 み子  
イエス・キリストによる ふっかつ 復活と みくに 喜 びに 導 いてくださいますように  
会衆 アーメン

## 派遣の 唱 和

一同立って、次の唱和を用いる。

司式者 かみ 神と ひと 人とに つか 仕えるため に行きましょ う  
会衆 しゅ 主のみ 名によって アーメン

ここで聖歌を用いてもよい。

## 聖歌 第 4 8 7 番

1 おもにきせいおうひとにやすぐらぎめあたたえる  
 2 なげかきらのいたむひとになきぼつさうまをあいわたええと  
 3 かみらのいたむひとになきぼつさうまをあいわたええと  
 4 かみらのいたむひとになきぼつさうまをあいわたええと

主主主も  
 よよよ  
 ああも  
 ななつ  
 たたたれ  
 はははた  
 やさかせ  
 みばれか  
 にくたい  
 ひにたを  
 かはにと  
 りなをき

ををうはなちそかの荷をとみだにぬみながわられる  
 はさるなかせそのおのなないのちをちとにぬみながわられる  
 うはさるなかせそのおのなないのちをちとにぬみながわられる  
 うはさるなかせそのおのなないのちをちとにぬみながわられる

Omoni seou hito ni  
 Mary Shigeko Yamano (1942-)

OMONI  
 Peter Michi Miyazaki (1968-)





この式文は、日本聖公会祈祷書別冊諸式『み言葉の礼拝』、  
『日本聖公会聖歌集』（2006 年）、『聖書 日本聖書協会共  
同訳』（2018 年）から抜粋したもので、日本聖公会東北  
教区主教 主教 ヨハネ 吉田雅人が、救主降生 2020 年 3  
月 11 日の東日本大震災 9 周年記念の祈りでの使用を許  
可したものである。